

2022 年 5 月 10 日

2021 年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 押立車返ささえあい協議会

代表者・役職名 氏名 会長 飛澤明夫

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

新しい生活様式の中での地域の居場所づくり

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

府中市による協働の働きかけにより、社会福祉協議会が主体となって、押立町地域の約 4,000 世帯を対象とした町会・自治会などの既存の組織には属さない住民も参加できる新たな地域コミュニティをサポートする団体を 2016 年 6 月に設立した。現在 7 年目を迎え活動に携わる会員は 26 人、単発のボランティアスタッフは 60 人ほどになっている。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

地域主体の活動が叫ばれ始めて久しいが、町会や自治会への参加率は低く、その主たる担い手となる役員は高齢化が進んでいる。そのなかで、ひとり住まい世帯やシングルマザー(ファザー)世帯の増加、また核家族・共働き世帯が普通となっている今、地域の中での相談事を誰に話したら良いか、といった何でもないことから、地域での生きづらさにつながっていき、地域で孤立している住民が増加している状況である。
さらにコロナ禍において、より孤立し孤独化が進んでいる現状がある。このような状況に対して自治会の枠にとられないコミュニティが新しい場を作っていくことが必要である。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

多世代において孤立をさせないために、「リアルに集まる場」と「情報を発信する場」という二本立てで居場所というものを捉えている。
リアルな場としては、小グループでの懇談、パソコンを使つての趣味活動、不登校生向けの自習スペースのほか、不定期での講習会(SNS講習・災害時に使える防災講座・災害応急トイレの使い方、子どもの居場所、寺子屋)や映画会などの開催、また、フードドライブやフードパントリーの拠点として、情報発信の場として、地元情報の定期的な配信・地元サークルの発表配信、そしてコロナ禍での子供の遊び(イベント開催)などの担い手として活動を行う。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

コロナの影響下での活動ではあったが、合計 84 回の拠点を使った活動ができ、参加者合計は 1,178 人と 199 の子育て世帯を数えた。また地域や学校へのちらし告知、SNS での発信回数を増やし、公式 LINE ページ登録者は 120 を超えた。この活動を通じて、孤立しがちだったひとり親世帯や独居高齢世帯などのつながりが増え、子どもの学習や食事の問題、高齢者の情報入手方法(スマホ対応など)など地域の新たな課題が浮き彫りとなった。オンラインを積極的に活用することによって、情報伝達や情報収集のみならず、『つながる』という重要なことが出来るようになった方が多く見られ、初めて地域とつながった人(世帯)を生むことにより、地域での連携(自治会間での連携、団体間での連携)も生まれるようになり、地域での当団体の認知度もアップしたものと考える。
また地域のタウン誌にも再三掲載され、SNS 等からの問い合わせが増えたことは効果的だったと言える。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

コロナ禍であってもある程度の活動ができる、ということが認識できた今、この活動を新しい様式の活動として捉え継続していくことが課題である。そのためには更なる地域での団体間連携が必要であり、資金・資材等の確保にも課題がある。大きなテーマでもある『食の確保』についてはフードバンクからの提供や地域でのフードドライブ開催が認知されつつある中である程度の物量確保が出来るようになってきた。

この活動は地道に継続していくことが最も大きな課題であることは百も承知である。

地域への告知とともに、スポンサーの獲得、協力者の確保などを通じて、さらに地域での活動を確認たるものとし認知度をアップさせていきたい。

2019年から3年間、この公募助成を活用させていただいたことを礎に、気づいた実績とともに、『地域の課題は自分たちで解決する、決して誰も取り残さない。』をスローガンに活動していく道しるべが出来ました。

3年間のご支援に心から感謝申し上げます。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



スマホを使ってみよう（LINE 超初級編）

6月6日(日) 10:00～2時間程度を予定

場所：押立車返ささえあい協議会居場所スペース
(押立町4-34-21 みらいサポートJOIN内)

※押立文化センターの斜め前です。

～講習内容～

- ・LINEアプリインストール、アカウント登録（初期設定します）
- ・友だち登録のしかた、友だちとトーク、LINE通話・ビデオ通話
- ・QRコードの使い方、タイムラインから情報を得る方法
(参加者2名に1名のスタッフが対応してサポートしながら進めます)

～申し込み～

- ・以下の電話番号もしくはFAXへお申し込みください。
- ・定員は、6名です。（先着順にて申し受けます。）
- ・費用は無料です。マスク着用にてお越しください。
- ・お手持ちのスマートフォンをご持参ください。

主催：押立車返ささえあい協議会 080-4193-8855

協力：府中市市民活動センター プラッツ

※この活動は真如苑多摩地域市民活動公募助成を活用しています。

参加者お名前

お電話番号

ご住所

FAX 042-456-0223

押立車返ささえあい協議会

お楽しみ会

子どもたち集まれ～

8月7日(土)

参加無料!

11:00～17:00の間にて1部90分間で実施
(3部制の事前申し込み入れ替え制です。各回15人程度)

※詳しくは裏面の申し込み要項をご覧ください。

場所：みらいサポートJOIN (押立町4-34-21)
(押立文化センター斜め前)

★事前申込み制です。裏面にある申し込みサイトから必ずお申し込みください。

(申し込み状況によってご希望の時間帯に添えないこともあります。ご了承ください)

★コロナウイルス感染予防に留意し、定員制・時間制にてお楽しみいただきます。

★景品お待ち帰り用にリュックサックや持ち帰り袋を持参してください。

★ご来場の際には、交通安全に留意してお越しください。

スーパ
ー
ボール
すくい

目方
はかり
ゲーム

景品
たくさん
輪投げ

ビンゴ
ゲーム



わなげあそび



焼き鳥



この事業には真如苑多摩地域市民活動公募助成を使っております。

月刊 調布・狛江・三鷹・稲城・府中の文化情報誌

武蔵野 くろすとーく

Apr.
2022
vol.474

4

特集：厄除元三大師大祭

深大寺のたるま市



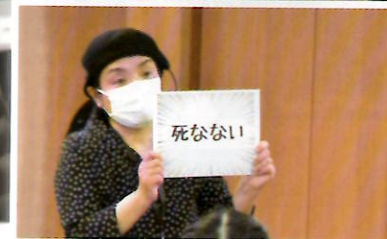
日本三大たるま市の一つ深大寺たるま市のにぎわい

わが街トピックス



防災講座『災害に強い家族になろう』

防災講座会場



一番は「死なないこと」と長田香さんは強調する



ポリ袋調理実習



防災グッズの即売

2月19日(土)、府中市押立文化センターで主婦防災士の長田香さんによる防災講座「災害に強い家族になろう」(主催：押立・車返ささえあい協議会OKS)が開かれた。

災害時にも日常にも役立つポリ袋調理実習の後、「避難には種類がある」というテーマで「地震が来た時に最初にすること」「避難訓練の間違い」「自分の命が一番の意味」「どんなに大変でも2〜3日がんばる意味」「死なないための準備」等々、具体的事例を挙げながら話っていた。特に「浴槽にためた水はトイレに流さない(災害時には下水管が破損している可能性がある)」というくだりは目からウロコの提言であった。



わからないところは質問できる



フードドライブ受付



和室での学習風景

地域の寺子屋&フードドライブ

2月20日(日) 23日(水・祝)の2日間、地域の寺子屋&フードドライブが府中・押立車返団地二街区の集会所で同時開催された。地域の寺子屋は学習支援として学校の課題やプリント学習など小中学生が対象で、東京外語大学の学生や府中東高校の生徒たちが学習サポートスタッフとして参加している。また、フードドライブはフードロスを無くして有効な資源を地域全体で循環させる取り組みで、家庭内に余っている食品を持ち寄った食品等を、押立・車返ささえあい協議会(OKS88)のスタッフが仕分け・箱詰めしてコロナ禍で困っている高齢者世帯、一人住まい世帯、子育て世帯等にお届けしている。

映画『テロルンとルンルン』上映会

8月21日(土) 府中市押立・車返ささえあい協議会(会長：飛澤明夫／略称：OKS88)の定例会で、映画『テロルンとルンルン』(監督：宮川博至)が押立文化センターにて上映された。父親が自分のためにつけた花火で事故死したことから自宅に閉じこもるようになった類(岡山天音)と、聴覚障害が発症し、学校や家族から孤立していく瑠海(小野莉奈)の二人がある日出会い、窓越しで交流を深めていく中で成長する姿を描いた、静かな感動を呼ぶ物語。上映後、トークセッションが行われ、いじめや引きこもり、差別社会への提言など多様な意見が交換された。小中学生や高校生にも観てもらいたいという要望も多く、10月24日(日)(入場無料)府中プラッツで上映される(コロナの状況により中止の場合あり)。



映画鑑賞後の感想交換会

問い合わせ：090-8757-6468 担当：大間。
<https://www.kokuchpro.com/event/eigakai/>



感染予防対策は
しっかりと



スマートボールすくい



人気のかき氷



開催前の説明風景

ボール投げ

ちょこっとお祭り気分

コロナ禍での夏休みが終わり、ストレスフルな子どもたちにいつきのお祭り気分を味わってもらおうと、9月4日(土)、府中市押立・車返ささえあい協議会が企画・主催して「ちょこっとお祭り気分」がみらいサポートJOINで実施された。12時から3回に分けて計86名の参加者とスタッフ17名が集まった。

受付での体温測定、手指消毒、マスク着用など徹底した感染防止対策の下、スーパーボールすくい、ボール入れゲームなど盛りだくさんの催しに子どもたちから歓喜の声が上がった。前回好評だったかき氷に長い列ができ、帰りには持参のリュックにたくさんのお土産を詰め満足の時間を楽しんだ。同時にフードパントリーも催され、8世帯の希望者に配布された。

わが街トピックス

押立・車返ささえあい協議会 夏休みお楽しみ会〜子どもたち集まれ〜

新型コロナウイルスの感染拡大が収束の兆しを見せないなか、不要不急の外出自粛、市民プールの閉鎖、お祭りの中止など、夏休みの楽しみの多くを失ってしまった子どもたちに、いつかのフワフワドキドキ感を味わって頂きたいと府中市押立・車返ささえあい協議会(会長：飛澤明夫／略称：OKS88)が企画・主催して「夏休みお楽しみ会」(担当：大間努副会長)が8月7日(土)、みらいサポートJOINで実施された。3部制(各回90分)

ボールすくい、目方はかりゲーム、輪投げあそび、ビンゴゲームなど盛りだくさんの催しに子どもたちから歓喜の声が上がった。始めに、非常食・アルファ米の作り方の実演があり、帰りは炊き上がったアルファ米と焼き鳥のほか、花火、お菓子など、持参のリュックサックに詰め切れないほどの景品が贈られた。会場の隣にある龍光寺住職の協力により境内を借り受け、スタッフ陣が作ったかき氷にのど

を潤した子どもたちは満足気に帰路についた。お母さんたちからは「子どもたち3人とも楽しかった」と帰ってきました。とくに輪投げやビンゴが楽しかったようです。お土産もたくさんあり、美味しーと言いつつ焼き鳥を食べていました。本当にありがたございました。また参加させてください」と感謝のメールを多くいただいたと担当の大間努さんは今回の開催も視野に入れて語ってくれた。

スタッフ一同



で計57名の小学生たちが集まった。受付での体温測定、手指消毒、マスク着用など徹底した感染防止対策の下、スーパー



受付での体温測定と手指消毒



輪投げあそび



出来上がったアルファ米



目方はかりゲーム